座光寺のシダ植物

ワラビやゼンマイなどのように根も茎も葉もあるが、種子ではなく胞子で仲間を増やす植物をシダ植物と言います。座光寺にはどんなシダ植物が生えているのでしょうか。

山菜になるシダ

春の山菜として好まれるシダにスギナ・ワラビ・ゼンマイ・クサソテツなどがあります。

スギナは土手や道端に生えますが、胞子をつける葉（胞子葉）を特にツクシと呼んでいます。スギナもツクシも早春の山菜です。

ゼンマイ

ワラビは草原や林縁に生えており、おひたし、汁の実、漬物などにして食べます。ぬめりのある歯触りが特徴です。

ゼンマイはやや湿った草原に生えています。食用にするのは胞子をつけない葉（栄養葉）の方で、まだ、綿毛をかぶっている若葉を食べます。

クサソテツ

クサソテツは湿った林中や草原に群生します。別名をコゴミと言い若葉を食用します。ひたし物、天ぷら、漬物などいろいろに調理されます。

観賞されるシダ

シノブは、岩上や樹幹に付着している夏緑性シダです。乾燥に強くつり玉に適し、軒下に吊り下げられます。

イワヒバ

イワヒバは、岸壁に着生する常緑性シダです。古くから栽培されているシダで観賞シダの代表格です。鉢植えにされたり庭の築山の岩上に植えられたり、また、ランなどと寄植されます。

イワオモダカは岩上や樹幹に着生する小形の常緑性シダです。希少種なので、山野で保全に心がけることが大切です。

ノキシノブ

ノキシノブは樹上、岩上に普通に見られる小形の単葉シダです。胞子のついている様をソロバンの玉になぞらえて、ソロバングサと呼ばれます。

分布で興味のあるシダ

若芽が紅色をしているベニシダは、暖地性のシダで岩手―山形県以南に分布している常緑性シダです。座光寺地域では標高約600m以下に産し、特に麻績神社に多産します。ベニシダは常緑樹林帯の標徴種なので、座光寺地域の標高600m以下は常緑樹林帯に属するといってよいでしょう。温暖化のためか、ベニシダはここ30年ほどの間に伊那谷を北上してきています。

ベニシダ

キジノオシダは、関東と新潟県以南の暖温帯に分布する常緑性シダです。麻績神社の社林に生えていますが、伊那谷ではこの地が北限に当たります。よく似た種にオオキジノオがあり、この種も麻績神社に生えています。

南本城城跡に産するシダ

林床には約50種ほどのシダがみられます。一箇所にこれだけのシダが生育しているのは珍しく、自然環境が保全されてきたことによるのでしょう。暖地性の南方シダとしては、ベニシダ・トウゴクシダ・オオベニシダ・イノデ・イノデモドキ・アイアスカイノデ・ヒロハイヌワラビ・キジノオシダなどが多産します。それに比べて寒地性の北方シダは、ホソイノデ・シノブカグマ・ミヤマイタチシダがわずかに見られるだけです。シダは微気候を反映して生育するので、ここが温暖な地域であることを示しています。

イノデ

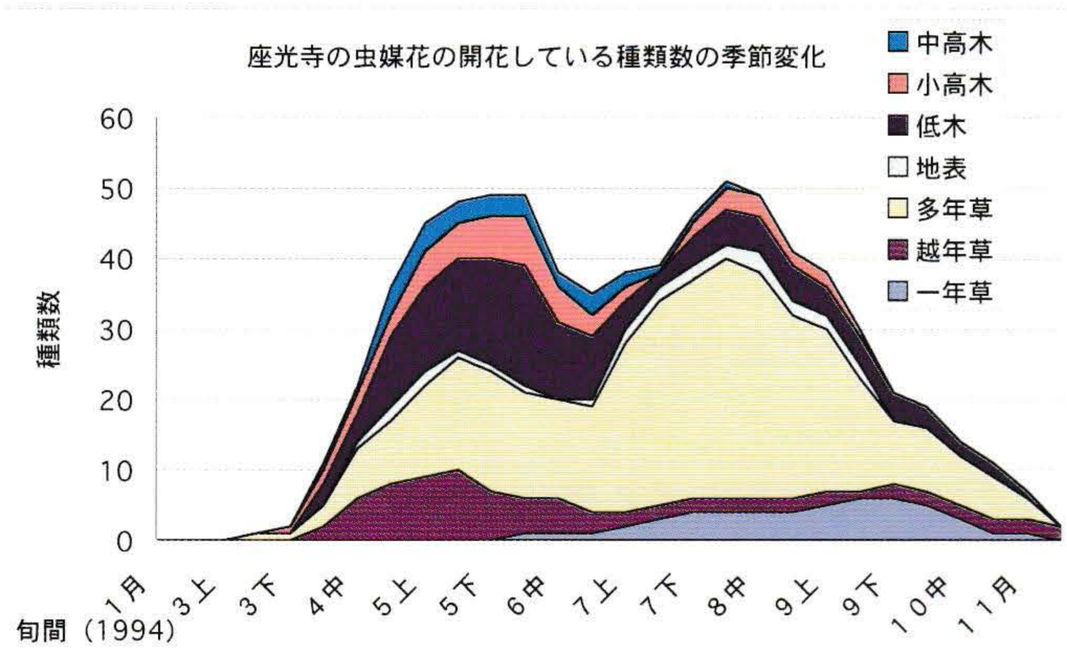
（堤　久）

季節の変化と咲いている花の種類数

春から秋まで花は次々と咲きます。どこを見てもたくさんの種類が咲いているときと、咲いている花の種類が少ないときがあります。一年間を通して、咲いている花の種類数はどのように変化するのでしょうか。座光寺の断層崖を中心に調べました。

旬 間別に咲いている花の種類を数えると

旬間とは一月を３つに分けたときの言い方です。上旬は１～10日、中旬は11～20日、下旬は21～末日までです。一年間の間、座光寺内で自然状態で咲いている花の種類を数えました。その結果を示したものが下のグラフです。



花がたくさん咲いている時期は８月上旬に51種、５月下旬・６月上旬に49種の２回ありました。その間は少なくなり、全体にフタコブラクダ型をしていました。

春に咲く種類と秋に咲く種類

春には樹木の花が多く、秋には多年草などの草の花がたくさん咲いていることも分りました。木は春になると一斉に咲きます。そして秋までに果実をつくり、種子を散布するのです。果実は大きくて鳥に散布を託します。

草本は越年草が春に咲きますが、多くの多年草は秋に咲きます。

雑木林に咲くカスミザクラ
（宮崎：土曽川沿い）

春の草原に咲くカラスノエンドウ（河原：南大島川堤防）

長く咲く種類と短い種類

花には一斉に咲いて、一斉に散ってしまう種類と少しずつ咲いて、長い間咲いている種類があります。例えば春に咲く樹木は一斉に咲きます。これは前年に花芽をつくっているので、暖かくなると一斉に咲き、開花期間が短くなるのです。夏から秋に咲く草花は長い期間咲きます。これは生育期間の個体差や蕾ができた順に咲くので、開花している期間が長くなるためです。

夏の草原に咲くノアザミ
（宮崎：土曽川沿いの水田土手）

例えば４月に咲くエドヒガンザクラは11日間、９月に咲くノコンギクは48日間でした。また木本で一番長く咲いていたのはコマツナギで74日、草本で一番長く咲いていたのはカタバミで182日でした。

秋の野に咲くノコンギク（万才）

（小林正明）